



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	音楽科における「21世紀型能力」：各教科における資質・能力と学習活動（21世紀型能力）(fulltext)
Author(s)	原口,直
Citation	教育と研究 / 東京学芸大学附属世田谷中学校(40): 6-10
Issue Date	2015-11
URL	http://hdl.handle.net/2309/140263
Publisher	東京学芸大学附属世田谷中学校
Rights	

音楽科における「21世紀型能力」

音楽科

1. はじめに

世田谷中学校で育てる「21世紀型能力」というのが本校の現在の研究テーマであり、音楽科では昨年度からこの能力の育成に取り組んでいます。音楽科では表現力・主体性・協調性を育成し、特に表現力を高め社会や文化とのかかわりに活用できる生徒を育成しようと指導を重ねています。

国立政策研究所による「21世紀型能力」とは

- ①中核となる思考力
 - ②それを支える基礎力
 - ③使い方を方向づける実践力
- の三層構造で、それが「生きる力」を形成していくとあります。この3つの力は他教科と同様に音楽科でも養っていく力です。②基礎力は日々の授業や中学校よりも

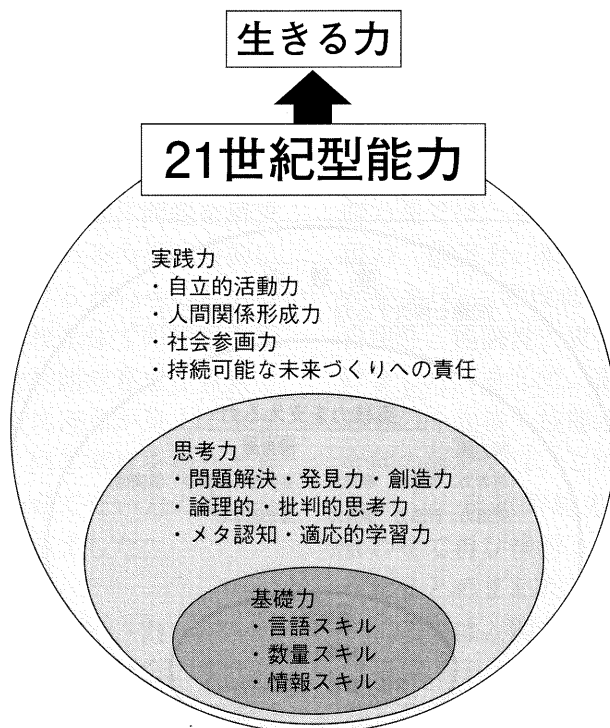


表1 「21世紀型能力」

前から培ってきた表現のために必要な能力です。すでにもっている基礎力の中から何をどう使うか考えたり、能力の不足があった場合どのように補うのか考えたりするのが①思考力であり、それを実際に活用することが③実践力になります。これらの3つの力は関わりあっています。(表1)

音楽科にとって高めたい表現力は②基礎力と①思考力に関わりがあります。表現とは、歌唱においては楽譜に書かれた音符や休符、記号等を読み取り、歌詞を理解し、音楽を形づくっている要素を理解し、作者の意図を理解したうえで、自分の持っている技術や能力を活かしたり、さらに付け加えたりして相手に伝えることのできる力です。また、鑑賞の表現として得た知識から自分の意見をまとめ、社会と文化につなげ相手に伝えるという力も求めます。つまり、単に音での表現だけでなく音楽を通して社会や文化とのつながりを考え、話すことや書くことで表現をします。とかく、音楽科での表現というと歌唱や器楽、創作といった音で表現することに偏りがちですが、音楽科でも言葉での表現を取り入れています。

具体的な取り組みを紹介します。

2. 具体的な教科指導

表現力を高め、社会や文化との

かわりに活用できる生徒育成のための音楽科の具体的な指導を歌唱、鑑賞に分けて紹介をします。

2-1 歌唱

歌唱における②基礎力は大きく2つあり、楽譜を読むために必要な知識(ソフト)と表現に必要な体(ハード)です。この②基礎力をつけるために必要なのが①思考力です。自分がめざす表現をするために、この知識や技術が足りないかを発見し、それをつけるためにどのようにすればよいのか考える力です。

(1) 知識の基礎力

まずは音符や休符、記号を覚える読譜力をつける活動です。音楽には様々なルールがあり、1年生の教科書に載っているだけで音符と休符で16種類あります。記号では音高の変化、音の強弱、反復、速度、演奏の仕方、その他の楽語で掲載数は50を超えます。

それ以外にト音記号やヘ音記号、階名(ドレミ…)など②基礎力をつけるために、始めに覚えることが多くあります。漢字や英単語を覚えるような基礎的な活動ではありますが、のちに表現する時の効率をよくし、思考したことを反映させるためにはなくてはならないことです。これは1学年のはじめに重点的に行い、3学年通し

て授業内でくりかえし使います。

加えて、拍子や速度といった楽譜から得られる情報を単元の始めに毎回必ず確認します。

さらに、音楽を形づくる要素を聴きとれるようにするため、ほぼ毎回の授業の冒頭にジャンルの異なる音楽を聴かせて、音楽の何に耳を傾ければ良いか、それをどのように言葉に表現すれば良いかを学びます。音を言葉に表すことで、音楽のちがいや自らの好みを明確にし、他人に伝えることができます。この力がのちの思考に役立ちます。これは3学年通しておこなっています。

また、欠かせないのは作者への意識です。自分が表現することを思考する際に、まず作者がどのようなことを表現しようとしているのか理解することが第一歩です。その中には時代背景や歌詞等も含まれます。こちらも3学年通しておこないます。

(2) 体の基礎力

取り入れているのが発声練習です。姿勢や目線を意識し、喉・肺・腹部を目的を明確にして動かします。すぐに身に付くものではありませんし、すぐに役立ったと感じられるものではないかもしれませんが、のちの表現の幅が広がります。こちらは1年生で重点的におこない、2・3年生では歌唱曲の

内容に応じて、適宜おこなっています。

(3) 基礎力を活かした思考力

以上2つの②基礎力と①思考力は密接に関わり、さらにそこに③実践力を加え、表現を高め合っています。

独唱の場合、この曲でこういった表現をしたいと[表現のための第一の思考]をします。知識が足りず自分の目指す表現ができないと感じた時に「どのような力が足りないのか」それを身につけるために「どのような方法があるのか」を[基礎力のための第二の思考]を持って考えます。それを表現に結びつけるために実践を重ねます。

歌唱『赤とんぼ』を例にとると、
[表現のための第一の思考]

歌詞に出てくる人物の気持ちを知って歌いたい。

[基礎力のための第二の思考]

作詞者が夕焼けに飛ぶ赤とんぼを、姐や(子守娘)と一緒に見た感情を知るためにはどうすれば良いか。

[表現のための第一の実践]

- ・作者の描いた土地や季節について調べる。
- ・写真を探す。
- ・生活や文化、風土を調べる。

[表現のための第二の実践]

「お里の便りも絶え果てた」の
終わり方の強弱を工夫する。

また、独唱での個人の表現と、
合唱での集団での表現はさらにち
がいがあります。集団で表現をす
るためには、個人の表現を一つに
まとめたり、精査したり、一人の
表現に寄せたりと、さらに高度な
①思考力が必要になります。その
際に、もともと持っている②基礎
力の差が出ます。

(2) 鑑賞

鑑賞における②基礎力は歌唱と
重なる部分もあります。前述し
た、音楽を形づくっている要素を
聴きとる、作者への意識は歌唱と
変わらず必要です。また、2年生
『交響曲第5番ハ短調』1年生
『魔王』などの西洋音楽の鑑賞教
材も歌唱と同じように読譜の基礎
力が不可欠です。

それを踏まえた上で、鑑賞では
社会と文化とのかかわりをより色
濃く出して指導をしています。そ
れは授業で習ったことを、授業と
考査でしか生かす場がないのは
「21世紀型能力」が求める「生
きる力」につながっているとはい
い難いからです。社会や文化と結
びつける①思考力を養ってはじめて
鑑賞の授業が成功したと言えます。

具体的にどのような単元を社会
や文化と結びつけているか紹介し

ます。

実践①

『交響曲第5番ハ短調』

(ベートーヴェン作曲)

「コンサートのチケットが手に入
りました。どのような準備をして
いきますか？」

コンサートに行く時に作曲者や
時代背景などの②基礎力を知るだ
けでなく、曲の構成や形式を①思
考することでより深く鑑賞ができ
るようにする。

[社会や文化とのかかわり]

企業や財団などが芸術文化を支
える社会体制を知り、音楽鑑賞を
する大衆文化を知る。

実践②

『日本の郷土芸能』

『世界の諸民族の音楽』

(エイサー、阿波踊り、ウズンハ
ワ、京劇など)

「外国の方に『日本の音楽を教え
てほしい』と言われたら何と説明
しますか？」

音楽の特徴をつかむだけでな
く、他人に説明する事を前提とし
て比較したり、言葉を選んだりす
る。

[社会や文化とのかかわり]

国際社会において我が国の文化
を説明したり、世界の音楽につい
ての知識や理解を深めたりする。

実践③

『文楽「菅原伝授手習鑑」より』
「鑑賞した後に大阪市が文楽協会への補助金廃止を提案したことについて考える。」

芸能の特徴を知った上で、芸能をつなげる難しさや意義と地方財政とを結び付けて考える。

[社会や文化とのかかわり]

芸術文化を支える国や地方自治体で起きている問題を知り、生活の中で文楽を鑑賞しなければ関係のない事ではなく、納めている税金がどのように使われているのか関心を持つ。

実践④

『ラブラドル・レトリバー』
(AKB48) 他
「AKB48は、いくらもらっているのか？」

CDを販売するために関わる様々な職種の人々の働きを知った上で、その生活を守ることを考える。

[社会や文化とのかかわり]

働く人々を守る上で欠かせない著作権に触れ、現在起きている問題やこれから起こりうる問題を考える。

3. まとめ

このように音楽科の授業内容には「21世紀型能力」である①思考力②基礎力③実践力すべてが関わり、高め合っていることがわかります。特に①思考力②基礎力なくしては、音楽科の求める表現力をつけたり、高めたりすることはできません。また、社会や文化と結びつける所までつなげることで身につけた力が、授業や学校の中だけでなく、他教科や生徒の日々の生活の中で役立つ「生きる力」につながると実感できます。

参考文献：

国立政策研究所ホームページ
http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika